

# 算数

共愛学園中学校 数学科

## 1. 出題方針

2013年度入試より、算数の入試問題の出題方針を変更しました。基礎の確認として、今までは計算問題を中心に出题をしていましたが、計算だけでなく教科書レベルの基本問題を取り上げ、「計算と基本問題」として算数の基礎が身に付いているかを判断します。特に、つまずきの多い内容である「速さ」や「割合」、そして、面積から高さを求める問題、割り算では割られる数を求めるなどの「逆算」の問いを中心に、基本問題を出題します。基本問題の出題が増えるので「いかに基本問題を間違えずに解くことができるか」ということが、入試では大切な力となります。ミスしやすい内容、つまずきやすい内容を、いま一度復習し直しておき、完璧にしておくことが必要になります。

その他の問題は、特に小学校4年から6年で学習してきた、小学校既習内容の総合問題として出題し、「算数的な思考力」・「自ら考える力」に重点を置いて出題します。

## 2. 出題内容

2015年度入試より

4 以下のように、ある規則性にしたがって、数が並んでいる。

1, 3, 5, 7, 9, 1, 3, 5, 7, 9, 1, 3, 5, 7, …

次の問いに答えなさい。

- (1) 7回目の7が出てくるのは、左から何番目の数か答えなさい。
- (2) 2015番目の数はいくつか答えなさい。
- (3) 1番目から40番目までの数の和はいくつになるか答えなさい。

実際に並んでいる数や具体物を見て問われていることの解を求めていくために見出さなければいけない規則性を考えさせたい、算数的な思考力に重点を置いた問題です。たとえ規則性に気付かなかつたとしても、根気良く取り組むことによつて解決できるものでもあります。受験生の自ら考え諦めずに取り組む姿勢も見たい問題です。

2016年度入試より

- 3 たけ男君は、父から2000円、母から1000円、祖父から3500円、祖母から1500円、叔母から2500円のお年玉をもらった。次の問いに答えなさい。
- (1) たけ男君のもらったお年玉の平均は一人当たりいくらか答えなさい。
- (2) たけ男君は、もらったお年玉のうち4割を両親に預け、残ったお年玉の70%を貯金箱に入れた。たけ男君の手元に残っているお年玉はいくらか答えなさい。
- (3) さらに、手元に残ったお年玉でカバンを買おうとしたらいくらか足りなかったので、足りない金額を両親に預けたお年玉から返してもらってカバンを買った。すると、両親に預けたお年玉はもらったお年玉の3割になった。たけ男君が買ったカバンはいくらか答えなさい。ただし、消費税は考えないものとする。

日常生活にある身近なことを題材にし、その中から計算方法・計算規則を見つけ出させ、実際の計算として問う問題です。多くの小学生が苦手としている割合や平均という考えは日常生活にあふれています。より深く考えさせ算数的な思考を生活に利用する力を確認したい問題です。

以上のような出題内容です。小学校で学んできたことを用いて、様々な問題に対応できる力が求められます。過去問題等を参考にして、一歩進んだ思考力を養うことが必要となります。